



但馬国府・国分寺館ニュース

2007.7 第9号

編集・発行

但馬国府・国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町袴布 808
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112
http://www.city.foyooka.lg.jp/kokubun/kan/



平安京の井戸枠 平安京跡／京都市右京区／平安時代／京都市蔵

平安京の邸宅内に造られた井戸です。井戸枠には、製材の際の目印である墨付が明瞭に残っています。また、製材の際に使用した手斧の加工痕が、波のように見えています。一辺1.3m（内法）、深さ1.7m。ヒノキ材。

● 第11回企画展「いにしへの匠の技—木とともに生きた人々—」を開催！

私たちは、現代よりも古代のほうが「劣っている」と考えがちです。しかし、発掘調査で出土するものの中には、私たちが舌を巻くほど高度な技術を用いて作った品が数多くあります。また、機械をもたない古代の人々は、手作業だけであらゆる製品を作ってきました。多くの出土品を見ていると、本当に古代は「劣っている」のか、疑問が湧いてきます。そこで今回の企画展では、木を中心にみた技術の歴史に焦点を当てました。

木は、私たちの最も身近にあり、また最も加工しやすい素材です。「ヨーロッパは石の文化、日本は木の文化」と

言われるように、日本では古くから木とともに生きてきました。それらの展示品から、現代の私たちが忘れてしまった「匠」の姿を感じていただければ幸いです。

■ 第11回企画展「いにしへの匠の技—木とともに生きた人々—」

平成19年6月28日（木）～9月25日（火）

■ 展示協力機関（50音順）

株式会社ぎょうせい 京都市文化市民局文化財保護課
竹中大工道具館 長楽寺 東京国立博物館
豊岡市出土文化財管理センター 奈良文化財研究所

木を加工する道具

私たちの身近にある木。縄文時代には、すでに斧や鑿^{おの}として使ったと考えることができる石器が出土していて、木をさまざまなものに加工していたことが知られています。弥生時代以降、鉄が普及すると鑿^{のこぎり}や鋸^{のこぎり}、手斧^{てっぺ}、錐^こ、ヤリガンナなどの道具が一式揃い、加工技術は格段に進歩しました。しかし、道具の不完全さと、さほど精密な加工が求められなかったため、技術には稚拙な部分もありました。



磨製石斧

(大：福成寺南遺跡／豊岡市福成寺／縄文時代
小：辻遺跡／豊岡市辻／弥生時代)



鉄斧

(立石墳墓群／豊岡市立石／弥生時代)

Topics 台鉋とヤリガンナ

私たちが思い浮かべる長方形の鉋^{かんな}（台鉋）は、江戸時代になって普及したものです。それ以前はヤリガンナとよぶ、文字どおり槍の形をした鉋が使われていました。ヤリガンナで平らな面を作り出すには、熟練の技と多大な時間が必要でした。



現代の台鉋（左）とヤリガンナ（右）
(立石墳墓群／豊岡市立石／弥生時代)

建築部材にみる匠の技

日本の建築の歴史は、縄文時代に遡ります。部材を縄で結わえる竪穴住居から、やがてホゾで組み上げる建物へと変化していきます。しかし、建築史上最も大きな変化は、6世紀に大陸から伝わった寺院建築です。

礎石の上に柱が立ち、瓦を葺いた建物は、これまでの建物よりはるかに複雑なもの。それは、正確な設計・施工技術が両立しなければなし得ないものだったのです。



巻斗

(但馬国分寺跡／豊岡市日高町／奈良時代)



七十七番職人歌合（職人尽歌合）

模本／江戸時代／東京国立博物館蔵
Image:TNM Image Archives Source: <http://tnmarchives.jp/>



柱（祢布ヶ森遺跡／豊岡市日高町／平安時代）



建築部材の切れ端

(但馬国分寺跡／豊岡市日高町／奈良時代)

Topics 「千年の釘」

古代の建物では釘は使っていない…とっておられる方は多いのではないのでしょうか。実は、古代でも釘は多く使われていて、しかも長さ30cmもある大きなものが中心。古代の釘は、目立たない部材ながら多くの工夫が施されています。その復元をした鍛冶職人白鷹幸伯^{しらたかゆきのり}さんの話、「千年の釘にいどむ」は小学校5年生の国語の教科書に採用されています。



白鷹幸伯さん制作の「千年の釘」
(左)
但馬国分寺跡出土の鉄釘
(右)

むねみだ (むねみだ) 棟札
(長楽寺蔵／寛政3年・西暦1791年)



木製品にみる匠の技

さまざまところで使われている木製品。何気ない品であっても、匠の技が光っています。木製品の製作には、鋸や鑿だけではなく、ロクロなども使われました。

また、2つの木を結合させるために、漆やアスファルトを接着剤として利用したり、桜の樹皮などで結んだりする方法がとられました。特に、仕口や継手とよばれる技術は、いかに強く、いかに見栄えよく見せるかで、職人技が発揮されていました。



刀形 (香住エノ田遺跡/豊岡市香住/古墳時代)



鉢 (駄坂河原遺跡/豊岡市駄坂/弥生時代)



皿 (平安京跡/京都市右京区/平安時代/京都市蔵)



楯 (南八代田遺跡/豊岡市日高町/弥生時代)

漆を使う

木は、そのままの状態では水を吸収して腐りやすくなりますが、漆を塗った製品は水を吸わず光沢のある美しい姿を見せます。このような漆は縄文時代から重宝され、遺跡から出土する木製品にもみることができます。また、漆を貯めた壺や塗る際に使ったパレットも出土しています。機能的で美しい漆ですが、採取から塗り、磨きなど多くの工程があり、それぞれで高い技術を必要としました。



須恵器 漆パレット (祢布ヶ森遺跡/豊岡市日高町/平安時代)



漆器 蓋(左)、箱(右) (平安京跡/京都市右京区/平安時代/京都市蔵)

江戸の匠たち

現在、豊岡市立図書館が建っている場所(豊岡市中央町)には、豊岡藩庁が置かれ、江戸時代から昭和まで、但馬の中心として栄えていました。発掘調査の結果、豊岡藩庁だけではなく、陣屋や屋敷跡なども見つかっています。また、出土した多くの木製品から、江戸時代の匠の技や人々の暮らしの様子を知ることができます。



豊岡城館跡の発掘調査 (現在、豊岡市立図書館が建っている場所です。中央に見えるのは豊岡小学校。南から。)



漆器 椀・皿 (豊岡城館跡/豊岡市中央町/江戸時代)



さまざまな木製品 (豊岡城館跡/豊岡市中央町/江戸時代)

但馬国府・国分寺館 名品ギャラリー

⑧ 但馬国分寺跡の井戸枠

但馬国分寺跡（豊岡市日高町）出土
西暦 763 年 / 深さ 2.7m、内径 1.7m / ヒノキ材

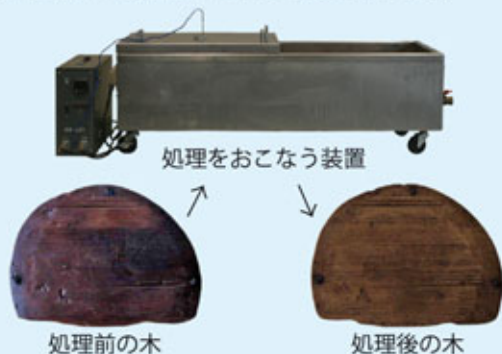


但馬国分寺の金堂跡北東側で見つかった井戸は、内法で一辺 1.7m と全国でも屈指の大きさ。製材する際に墨付（製材の目印となる線）や番付（組み立てる順番）が書かれていて、当時の加工技術の高さを知ることができます。

また、この井戸の部材を年輪年代法（木の年輪幅の変化を調べて、木材の年輪が何年前のものかを判断する方法）によって調査した結果、西暦 763 年に伐採されたことが明らかになりました。この頃の但馬国分寺では、巨大な井戸を必要とするほど活発な寺院活動をおこなっていたようです。ちなみに、井戸の中からは「大院」と書かれた土器が出土していることから、大衆院（だいしゅういん 僧侶らの食事を調達する場所）の中に造られた井戸と考えることができます。

Topics 木製品の保存処理

遺跡から出土する木は、水漬けの状態です。長期間土の中に埋もれていたため、自然乾燥させると大きく変形してしまいます。そこで、木の姿を保ち後世に残すため、保存処理をしています。豊岡市では、糖アルコール含浸法という、木の中の水分をラクチトールという安定した物質に置き換える方法を中心に処理をしています。



■ミニ企画展「カブトムシ博士になろう！！ー世界のカブトムシが国分寺館に大集結！」を開催します。

みんなが大好きなカブトムシが、国分寺館に大集結！兵庫県立人と自然の博物館が所蔵する、世界のカブトムシの標本約 260 点や、但馬に生息する昆虫などを展示します。



サタンオオカブト

この夏、きみもカブトムシ博士になろう！

会 期：7月 21 日（土）～8月 31 日（金）

*毎週水曜日は休館します。

場 所：但馬国府・国分寺館 総合学習室

入館料：ミニ企画展のみの観覧は無料です。

展示協力・写真提供：兵庫県立人と自然の博物館

お知らせ

■講演会を開催します

第 11 回企画展「いにしへの匠の技」に合わせ、講演会を開催します。発掘調査で出土した資料を見ながら、古代の技術の高さを考えます。ご来聴をお待ちしております。

演 題：遺物から見た古代の匠

講 師：前岡 孝彰（当館学芸員）

日 時：平成 19 年 9 月 15 日（土）午後 1 時 30 分～

場 所：但馬国府・国分寺館 映像ホール

但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■開館時間：午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

■休 館 日：毎週水曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（12 月 28 日～翌年 1 月 4 日）

■入 館 料：大人 500（400）円、高校生 200（150）円、
小中学生 150（100）円 / （ ）内は 20 名以上
*県内小中学生は無料。市内の 65 歳以上の方は半額。

■最新情報など情報盛りだくさんのホームページもご覧下さい。

<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>